

学校法人 青山学院
2006 年度事業計画書

2006 年度事業計画

学校法人青山学院が設置する幼稚園、初等部、高中部（中等部 - 高等部）、女子短期大学、大学、大学院が、青山学院創設の理念と使命に基づき、各学校における教育研究活動を積極的に展開、推進している。

2006 年度では、各学校において特に重点項目とされる事業計画を以下のとおり策定する。

【法人】

1. 青山キャンパス再開発の取り組み（24 億円）

第二次将来計画委員会報告書『青山学院の課題と展望』に「幼稚園から大学院までを擁する総合学園の都市型キャンパスの新たな展開を目指して、敷地の再利用、建物の新改築・解体、景観設計などの総合的なマスタープランを立て、中長期的な展望に基づく実施計画を策定することが肝要である」とあり、この報告を受け、経営執行会議のもとに「青山キャンパス再開発計画委員会」を置き、青山キャンパス再開発グランドデザイン案を策定している。更に教育研究のアカデミックグランドデザインを策定した上で、ソフト面とハード面のグランドデザインの融和を図っていくとともに、青山キャンパスに建設する新校舎及びその他関連する事項のマスタープランを併せて検討している。

2006 年度の青山キャンパス再開発に関する事業計画としては、間島記念館はシンボリック建物として保存する。保存方法としては、外壁を復元保存し、構造体は新築する。新しい構造体は、関東大震災の 1.5 倍程度の地震に耐える安全性を確保する。外観は、当時の「設計」・「材料」・「工法」で復元することとしている。そして、間島記念館の後方の建物については、最終的な話し合いをしているところである。 [教育研究の充実]

2. 個人情報保護に対する取組みの強化

昨年 4 月に全面施行された個人情報保護法に基づき行ってきた個人情報に対する取組みを、更に強化する。学院に係る者への個人情報の重要性の啓蒙、情報セキュリティ対策をはじめとする安全策の実施による個人情報の正確性及び安全性の確保、業務実態に応じた個人情報保護のための管理体制の改善等を行い、個人情報保護の徹底を図る。また、あわせて各設置学校及び各部課の対応状況の監査を順次実施してこれを維持、あるいは継続的に改善して、個人情報取扱事業者としての社会的責任を果たしていく。 [ガバナンスの強化]

3. 情報セキュリティ管理の徹底

利便性と安全性のバランスを最適に保ったセキュリティ管理を各組織の中に浸透

させていくことを目的として、昨年 10 月から学院全部署の情報資産の洗い出しと資産管理台帳の作成、管理・運用方法の見直しを開始した。2006 年度はこれを更に推し進め、個人情報も含む学院全般の情報セキュリティ管理を確立する。具体的には、情報セキュリティ対策を策定して情報セキュリティポリシーを決定し、ポリシーに準拠した共通手順書を作成。情報セキュリティについて、学院に勤務する者への周知と徹底を図る。 [ガバナンスの強化]

4. 「青山学院 EVERGREEN 21 募金」の継続募集（10 億円）

2004 年 6 月から本格的に活動を開始したこの募金は、「青山キャンパス再開発」及び「給付奨学金制度の充実」のために、募金期間 5 年、募金目標額 50 億円を設定して始められたもので、青山学院教職員はもとより、校友の方、また広く実業界からもすでに温かいご支援をいただいている。3 年目を迎える 2006 年度は、募金募集体制を更に強化し、学院の発展のための支援を広く訴えて、年度目標の 10 億円の達成をめざす。 [ガバナンスの強化]

5. 青山学院知的資産連携機構の活動強化

設立 2 年目を迎える 2006 年度は、青山学院の知的資産具現化と更なるマネジメントの充実を目指して活動を強化する。

学院内に向けては知的財産についての意識を高めるべくキャンペーンを展開し、人の権利、自分の権利についてコンプライアンスの重要性を啓発し、その成果である知的財産を教育事業に展開する仕組みを策定する。

また、外部ステークホルダーとの連携強化として知財クリニックの運用体制の充実を目指し、青山学院の設立理念に理解をもつ外部専門家との契約を増やしてクリニックの実績を積むとともに、校友センター及び校友会と連携し、知的資産のマネジメントについて情報交換や勉強会を開き、「青山知財クラブ」の発足をも図る。

[ガバナンスの強化]

【大学】

1. 大学第二部改革と新設学部

大学では以前から第二部改革の重要性を認識し、「第二部・大学院改革委員会」、「新学部設立準備委員会」等において鋭意検討を進めてきたが、法人とよく協議した上で、アカデミックグランドデザインの一環として、経済学部第二部、経営学部第二部を募集停止し、新設学部設置に向けて、迅速かつ前向きに検討していくこととした。今後、「新設学部開設準備室」の設置を目指し、学内の十分な合意形成に努めながら、2008 年 4 月を目途に新設学部開設を目指す。

[教育研究の充実]

2. 女子短期大学との統合

女子短期大学と大学との統合については、理事長、院長の諮問を受け、両校の伝統、教育理念を尊重しつつ、青山学院の高等教育の発展を目指すことを目的に、両校執行部間の議論を重ねてきた。これらの議論の上、2005年9月法人に「中間答申」を提出したが、それを踏まえ、院長の下に両校代表者によって構成される連絡協議会を設置することが決まった。2005年度中には「最終答申」を作成し、基本的方向を明らかにする予定である。 [教育研究の充実]

3. 大学基準協会の認証評価（2007年度）への対応

大学では、認証評価項目として特に重要と思われるFD活動について、本学としての積極的な取り組みを示すことを視野に、大学全体のFDのあり方について随時提案し、その実行を目的として、2005年度、学長直属の組織としてFD開発プロジェクトチームを設置する等の施策を行ってきた。これに加え、各部署の自己点検を行い、2007年度に申請予定である財団法人大学基準協会の認証評価の準備作業を完成させる。 [教育研究の充実]

4. 社会学連携機構及び社会学連携研究センターの設置

文部科学省の「現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）」に、現代GPプログラム「渋谷・原宿・青山を繋ぐ商業観光拠点の育成」（副題）「本学の理念に基づく地域貢献の実践と社会学連携体制の拡充」が選定されたことに伴い、地域社会・行政・企業等との積極的な連携協力を通じ、大学が果たすべき社会貢献を推進することを目的として、青山学院大学社会学連携機構を設置し、その下に青山学院大学社会学連携研究センターを置いて、当該現代GPプログラムを推進する。 [教育研究の充実]

5. 授業支援機構の整備

従来のラーニングメディアセンター構想で本来目指すところの、授業を支援する全学的な機構を構築する。総合研究所に設置され、現代GPプログラムにも採択されている「eラーニング人材育成研究センター」とも連携する形とする。その一環として、教材開発については情報科学研究センター、外国語ラボラトリー、事務システム室、相模原授業支援グループなど、授業を支援する各部署が総合的に関わり、教員も参加する形とする。 [教育研究の充実]

6. 青山スタンダード科目の第二部への導入

青山スタンダード科目は、学問分野や学部・学科の枠組を超えた全学共通教育システムとして、「およそ青山学院大学の卒業生であれば、どの学部・学科を卒業したかに関わりなく、一定の水準の技能・能力と一定の範囲の知識・教養をそなえ

ているという社会的評価を受けることを到達目標とする」ことを基本的なねらいとするものであり、2003年4月相模原キャンパス開学と同時にスタートした。青山スタンダードは現在、相模原キャンパス及び青山キャンパスの昼間部で実施しているが、2007年度の青山キャンパス第二部への導入を目指す。第二部への青山スタンダード科目の開講は、単に大学の教養教育としてではなく、女子短期大学及び高等部をも含む青山キャンパス全体の教養教育としての位置づけをねらいとしている。 [教育研究の充実]

【女子短期大学】

1. 学生による授業評価実施（150万円）

総合的なFD（Faculty Development）の一環として、2005年度（文部科学省平成16年度私立大学等経常費補助金「私立大学教育研究高度化推進特別補助」）実施に引続き、2006年度前期1回、後期1回実施する。 [教育研究の充実]

2. 子ども学科開設に伴う音楽室・音楽準備室等拡張工事（1,068万円）

環境基盤の整備として、2006年「子ども学科」（3年制）開設に伴う、音楽室の拡張工事を実施する。厚生労働省の指導により、実技系授業の実施については一クラス50名程度のガイドラインが示されていることにより、音楽系の授業もこの範疇に入ることになる。子ども学科は2クラスの授業を同時間帯で実施するため、現在の音楽室の他、音楽室を60名規模の教室に改修して音楽授業の教室環境を整備する。 [環境基盤の整備]

3. L301教室の整備を実施（688万円）

教室環境の整備として、2004年度に床張替と机・椅子の交換を行ったことに引き続いて、二期工事として天井及び壁の塗装並びに老朽化したAV機器取替を実施する。 [環境基盤の整備]

4. 図書館棟3階LL教室を普通教室として改修工事を実施（296万円）

教育研究用コンピュータ・システム及びCALL（Computer Assisted Learning Language）システムが更新され、両機の機能を同一システム内に組み込まれ、マルチメディア教室、情報処理実習室での関連授業のサービス向上が図られたことにより、これまで使用していたLL教室を普通教室に改修することにより、教室環境の整備を実施する。 [環境基盤の整備]

5. 構内避難経路図を設置（183万円）

学生・教職員の安全管理の一環として、建物各所に避難経路図を設置して来たが、更に学生・教職員に日常的に避難経路を周知徹底するために、教室、実験室他常

時使用している部屋にも避難経路図を設置する。 [安全管理の強化]

6. シオン寮防犯設備の強化（二期外壁工事）を実施（455万円）

2005年にシオン寮前面道路側外壁上の有刺鉄線を撤去して、目隠し用のアルミフェンスを設置したが、更に拡張する必要があるため、今回二期工事として目隠し用のアルミフェンスの設置と既存のフェンス、アルミ門扉には上端に有刺鉄線を取り付けるとともに、厨房口門扉を新設するなどして、さらなる安全管理を図る。 [安全管理の強化]

7. 臨時警備業務委託の実施（67万円）

通年で実施している宿直業務のほか盗難防止強化策の一つとして、履修登録時、授業期間及び定期試験期間に午前、午後各1回1時間の学内警備巡回を実施する。 [安全管理の強化]

【高等部】

1. 設備保全工事（1,950万円）

高等部では、校舎の建て替えが近い将来に計画されることを考慮し、既存の施設・設備の拡充は見合わせ、生徒の安全確保のための工事、老朽化の著しい設備を対象をしぼり取替えを行う。

北校舎普通教室クーラー取替え

北校舎普通教室（高等部3年生使用）クーラーは、1989年設置の冷房専用機で、機器老朽化が進み、能力低下や効率低下が著しく故障も多い。生徒の教育環境を整えるため、今回エアコンへの取替えを行う。

東A校舎照明器具取替え

東A校舎の照明器具のうち、設置後19年を経過している図書館閲覧室、階段、トイレの器具取替えを行う。 [環境基盤の整備]

2. 追分寮浴槽改修工事（127万円）

追分寮の浴室棟は、1959年に風倒木を利用して本館（女子寮）と西寮（男子寮）の間に建てられた別棟で、1967年に浴槽を整備した後は大きな補修を行っていないため、老朽化が著しい。浴槽については毎年水対応の修理を繰り返しているが、隣接地を取得したため、具体的な計画が策定されるまで、応急措置として浴槽のみの修繕を行う。外壁等については、一部腐食している箇所を修理のうえ、全体に防水塗装処理を行う。追分寮は、ホームルーム活動や数学合宿、課外活動など、校外教育の場として貴重な施設であるので、今回、上記の改修工事を行うこととした。 [環境基盤の整備]

3. 理科実験器具の充実（800万円）

理科実験器具の購入

地学関係器具購入

地学で岩石の観察等に使用する偏光顕微鏡が現在1クラス分しかなく、2教室で同時に授業を行う際に、片方しか実験指導ができないため、2クラス同時に指導ができるようもう1クラス分の顕微鏡を購入する。

生物関係器具の購入

生物授業の際に、実際に現物を観察して減数分裂という現象を理解させるためのプレパラートや遺伝子実験の結果を確認するための電気泳動装置等を購入する。 [教育研究の充実]

【中等部】

1. 一貫教育の充実

高中部の二部長制に伴い、より一層の初中連携、中高連携が求められる。そのために次の事柄を行う。

初中連絡会・中高連絡会の毎月開催

生徒の学習・生活状況の共通理解を深めるための合同研修会の充実

学習・進学の記録の共有

授業・学校行事への各部教職員の相互参観及び参加 [教育研究の充実]

2. 平和教育の充実

平和教育を充実させるために、昨年度より沖縄旅行が実施された。沖縄の歴史と、沖縄の人々が現在抱えている基地問題を通して、平和とは何か。平和を実現するために何をなすべきかを考えさせるために、次の事柄を行う。

課題図書のリポート

沖縄ノートの作成

平和講演会の開催

沖縄旅行の報告、感想発表・展示 [教育研究の充実]

3. 教務システム化整備計画

中等部では、以前成績資料は全て手作業で対応していたため、学期末、学年末の教員の負担は大きかった。このような状況のなか、パソコンの導入などにより、個々に成績データを入力する教員も増えてきた。数年前から教務委員会と事務室教務担当で検討し、成績データの入力、帳票類の出力等少しずつ機械化を進めてきた。現状では、事務室教務担当が、教員の入力した成績データ等をパソコン上でデータ貼り付けし、帳票類を出力している。しかし、この方法ではデータの一元化ができておらず、セキュリティ面からも安全とは言いがたい。今回、外部業

者による教務システム(パッケージ)を導入し、多少のカスタマイズを行うことにより、より効率的で安全な教務システムを構築し、部内の合理化、省力化を図りたい。[教育研究の充実]

【初等部】

1. 新礼拝堂の建設(7億9,800万円)

学院創立130周年記念事業の一環として2003年8月から着工されている初等部校舎建替新築工事は、2006年3月には新低中学年棟が完成し、2006年度より1~6年生が新しい学習環境のもとで生活を送ることになる。引き続き、2006年度は、現低学年棟の解体の後、9月より新礼拝堂の建設に着工し、2007年3月の完成を目指す。現存のパイプオルガン及びステンドグラスは新礼拝堂へ移設する。 [環境基盤の整備]

2. 収容定員増計画 教員数の適正化(増員)

新校舎完成に伴い、各学年を3クラスから4クラス制とし、少人数教育(30~32名)の充実を図るが、それと併行して2006年度に各学年8名の収容定員増申請を考えている。

2006年度より各学年4クラス制を実施するにあたり、クラス増となるので、学級担任となる教諭の増員採用を行う。 [教育研究の充実]

3. 児童の安全管理

学校内外を問わず、小学生を狙った犯罪が後を絶たない。初等部でも種々の防犯対策を実行してきているが、主として校内・門内外・学校周辺を対象にしたもので、警備員・教職員・警察の協力によるもの・防犯機器の設置や携帯などである。今後は更に加えて、通信技術の飛躍的進展によって、児童の位置確認・門での来校者の自動チェックなど可能な現在、初等部としては各児童の動き(登下校チェック・位置など家庭で保護者が確認)を中心とした安全確認対策を実施していきたい。 [安全管理の強化]

【幼稚園】

1. 園児の安全確保を目的とした危機管理面における施設設備の強化(159万円)

近年、幼児・児童をねらった凶悪犯罪の増加や東海沖直下型大地震発生にむけての都市の対応など懸念される状況の中で、幼稚園もその対応策を求められている。2005年度に実施したピアノ転倒防止、収納棚の振動時自動施錠の設置に加え、2006年度は、ガラス飛散防止フィルムの施工を実施する。また不審者侵入を未然に防ぐための防犯効果の増大と証拠物の提供を目的にした玄関及び年少組庭フェンス監視用防犯カメラ設置については、引き続き検討課題としていく。こう

した対策をとることにより、より一層安心して園児を預けられる幼稚園であることを目指す。 [安全管理の強化]